

一般社団法人岡山県法人会連合会 会長賞 受賞作品

税について感じたこと

倉敷市立児島中学校3年

尾形 陸斗

今、ぼくのまわりにはいろいろな種類の税があります。消費税や所得税、たばこ税などよく耳にするものからほとんど聞いたことのないようなものまで様々です。最初税についてはあまり興味がありませんでした。しかしテレビのニュースや学校での先生の話の聞いていると、税は国やぼくたちの生活を支えるうえでとても大切なものだと知り、そこから税について興味がわいてきました。

まず、疑問に思ったのはニュースで報道していた消費税増税のことです。そのときの消費税5%を8%に増税するとのことでした。しかももうすこし先の未来では10%にさらに増税すると報道されていました。国はぼくらのことを考えてくれないのかとすこし腹がたちました。国の財政は厳しいのかもしれないけれどその穴埋めに国民から税として納めさせるのはどうなのかなと思いました。しかも、税金を納めたとしてもその管理の人がきちんと不正なく国に渡し、きちんと使われているかどうかわからない、国のため、国民のために使わないと納めている意味がないと思います。最近ではニュースなどでお金の管理の不正についてよく報道されています。そういうことを目にしていて国が財政が厳しいと言われても納得できませんでした。もっと政府のほうで工夫をすればいいのではないかと思いました。

しかしそんなことはありませんでした。納められた税はぼくたちの身のまわりのことにきちんと使われていました。たとえばぼくたちが学校であたりまえのように使っている教科書。あれは全額国が負担してぼくたちに無料で配布されているものだと知りました。また道路の整備なども税金で賄われていることも知りました。これらのことを知ったときぼくは思いました。いくら税金を納めているからといってぼくたちがえらいわけではなく、国が大変なときには国民全員で知恵を絞りあい助け合っていかなければならない、なんでもかんでも総理大臣や議員の人におしつけるのではなくてぼくたち自身も国の様々な問題としっかり向き合っていくことが大切だと思います。そうしていけば今、国が抱えている問題も必ず解決できるし、その問題が解決できたときは日本という国がもっとひとつになっているだろうと思います。

このようなことを続けていって日本という国がもっともっと豊かで幸せな国になることを強く願います。